

衆議院外務委員会ニュース

平成 26.3.12 第 186 回国会第 4 号

3 月 12 日（水）、第 4 回の委員会が開かれました。

1 国際情勢に関する件

- ・岸田外務大臣、世耕内閣官房副長官、木原外務大臣政務官、若宮防衛大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

玄 葉 光一郎君（民主）

- ・TPP 交渉について、交渉の現状の評価や、妥結してからの段取りを踏まえたスケジュールの見通しについて伺いたい。
- ・自民党の公約には、「守るべきものは守り、攻めるべきものは攻める」とあるが、政府としてどのように理解し、交渉にあたっているのか。
- ・昨年末の安倍総理による靖国参拝に対する岸田外務大臣の見解と、岸田外務大臣が参拝していない理由を伺いたい。

松 本 剛 明君（民主）

- ・国家安全保障会議の指揮命令系統を整理し、内閣危機管理監と国家安全保障局長のラインを一本化することにより、北朝鮮によるミサイル発射のような緊急事態の対処を迅速に行っていく必要があるのではないか。
- ・北朝鮮によるミサイル発射事案があった場合、事後においても民間航空機や船舶に当該情報を伝えるべきだと考えるが、これを行わないという判断は誰が決定するのか。
- ・中国の防空識別区設定について、日米連名の書簡を国際民間航空機関（ICAO）に提出した外交的意義及び同機関の理事会における政府の取組について伺いたい。

阪 口 直 人君（維新）

- ・ウクライナ暫定政権の正統性についての岸田外務大臣の所見を伺いたい。
- ・米独仏の首脳がロシア大統領と直接電話会談を行った事を踏まえ、安倍総理はロシア大統領と会談を行わなかったのは何故か。
- ・昨年末の安倍総理による靖国参拝は、外交を行う上でどれほどの影響を与えているか、岸田外務大臣の所感を伺いたい。

村 上 政 俊君（維新）

- ・外交は国内世論と密接に結びついており、国内世論が外交の後押しをすることも、矛盾を生じさせることもある。岸田外務大臣は我が国の外交を展開する上で、国内世論をどう認識し、具体的にどのような場面で矛盾を感じる可能性があるのか伺いたい。
- ・3 月 11 日のウクライナ情勢に関する日露外相電話会談において岸田外務大臣は、ロシアの「力を背景とした現状変更は受け入れられない」と表明した。仮にロシアの上記試みが達成された場合、東・南シナ海における中国の海洋進出に与える影響について岸田外務大臣の認識を伺いたい。
- ・中国は日本を、第二次世界大戦後の国際秩序に挑戦しているとし、日本は中国を、東アジア、アジア太平洋地域において隣国と領土問題を生じさせるなど、力による現状変更を試みているとしており、双方が国際社会におけるそれぞれの位置付けについて争っていると考えが、岸田外務大臣の所見を伺いたい。

青 柳 陽一郎君（結い）

- ・ウクライナ情勢に関して、日本は、ロシアへの制裁に踏み切る欧米各国とは立場を異にしており、ウクライナへの金融支援等の経済分野での関与に徹しているように見受けられるが、今後の対処方針について岸田外務大臣の所見を伺いたい。
- ・我が国は現在、北朝鮮人権国連調査委員会、COI の最終報告書の勧告が国連人権理事会の北朝鮮人権決議に盛り込まれるよう取り組んでいるが、さらに安保理決議を見据えた取組が必要ではないか。
- ・3 月 16 日からのベトナムのサン国家主席来日において共同声明を發出すると聞いているが、両国間のどのような事項を重視した内容となるのか伺いたい。

笠井 亮君（共産）

- ・ウクライナのクリミア自治共和国は3月16日にクリミアのロシア編入を問う住民投票を実施する予定であり、さらにクリミア議会は独立を宣言する文書を採択している。このような一地域の一方的な独立と他国への編入という行為が国際法上許されるのかどうか伺いたい。
- ・国連総会決議3314（侵略の定義に関する決議）の第3条では、他国の港や沿岸の封鎖、駐留軍の合意に反する使用、武装集団・非正規軍の派遣への関与も「侵略行為」とされており、現在ウクライナで進行する事態はまさに侵略行為に当てはまるのではないか。
- ・我が国は、ロシアの軍事介入を侵略行為に該当するとして明確に中止を求めるとともに、当事者間の話し合いによる解決を求めることが重要ではないか。

玉城 デニー君（生活）

- ・3月4日に発生した嘉手納基地所属のF-15戦闘機の風防ガラス落下事故について、米国から我が国に対して事故の詳細等どのような報告があったのか伺いたい。
- ・米軍機の事故に起因する落下物等が地上の民間人や海上の漁船等に損害を与えた場合の補償についてどのような取り決めがあるのか伺いたい。
- ・米海兵隊のエイモス総司令官が、2月15日付のカリフォルニア州の地元紙UTサンディエゴのインタビューにおいて、米国外での大規模駐留の困難さと、共同訓練の在り方の変更による基地周辺への日常の影響を減らすことについて言及したが、岸田外務大臣の認識を伺いたい。